

次月活動予定

10月

- 2日 さくら市教育委員会施設見学3sc
- 4日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
- 5日 再犯防止推進サポート事業県南家族教室
- 6日 アナク16周年フォーラム
- 8日 大相撲那須与一大田原場所ボランティア 宇都宮保護観察所プログラム
- 9日 大相撲那須与一大田原場所ボランティア
- 10日 再犯防止推進サポート事業県央
- 11日 再犯防止推進サポート事業県北
- 12日 埼玉ダルクフォーラム 三重ダルクフォーラム
- 15日 再乱用防止教育事業県南
- 16日 黒羽刑務所薬物依存離脱指導 岡本台病院連絡会
- 17日 再乱用防止教育事業県庁
- 18日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
NPO 法人セブナーサリーとの交流会
- 19日 家族教室 再犯防止推進サポート事業県央家族教室 再乱用防止教育事業県央
長崎ダルクフォーラム 那須烏山市健康福祉まつり 第14回那珂川町福祉まつり
おやまーるまちなか交流まつり
- 20日 おやまーるまちなか交流まつり
- 23日 再犯防止推進サポート事業県南
- 24日 宇都宮保護観察所プログラム 再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター
薬物乱用防止研修会 再犯防止推進サポート事業県央
- 25日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導 更生保護表彰式
再犯防止推進サポート事業県北
- 26日 駿河ダルクフォーラム
- 27日 宇都宮家族会
- 28日 東京保護観察所プログラム
- 31日 栃木県薬物再犯防止推進会議

11月

- 1日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
- 2日 再犯防止推進サポート事業県南家族教室

編集 特定非営利活動法人栃木DARC

〒321-0923

栃木県宇都宮市下栗町 2292-7

TEL 028-666-8536 FAX 666-8537

URL <http://www.t-darc.com> Eメール: nesm@t-darc.com

発行所

郵便番号一五七〇〇七二 東京都世田谷区祖師谷三―一―一七―一〇二号
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円

SSKO

栃木 DARC

ニュースレター 第198号(2019.10.12)

Grow up!!

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

JRCNA15 in Utsunomiya

特定非営利活動法人 栃木 DARC

代表理事 栗坪千明

残暑はありますが、虫の声や朝晩の気温の変化など、秋色がますます濃くなってまいりました。皆様におかれましては体調管理などが難しい季節だと思いたいますがいかがお過ごしでしょうか。私の先月は9月はじめのNAコンベンション、なかばの沖縄ダルク研修、末には韓国ダルクフォーラムとイベントや出張に忙しく、流石に風邪気味です。

今回は2年前から準備を進めてきたNAリージョナルコンベンションについて報告したいと思います。この文章はNAの代表意見ではなく私の個人的な話として読んでください。

9/6,7,8の3日間、前夜祭を入れると4日間に渡り、宇都宮市文化会館貸切で開催されました。全国から集まった参加者は1,119人です。このイベントは2,000年から開始され今回で15回目の開催です。Narcotics Anonymous(NA)という自助グループがメンバー同士の交流と回復を祝い、開催されるものです。とはいえ全日かなりの熱気です。特に盛り上がるのがカウントダウンというイベントです。クリーンタイムを長い順にカウントダウンしていき、自分の年月になったら立ち上がり皆の祝福を受けるというのですが、元依存者の盛り上がりは相当なものでロックバンドのコールのような盛り上がりになります。中でも最後のJust for today(今日一日)が一番盛り上がります。自分たちがビギナーだった頃を思い出し感動するのでしょうか。狂わんばかりの熱狂です。そのほかメインスピーカーでは体験を分かち合い、分科会ではLGBTQや女性問題ややめた後の問題など個々の問題について分かち合います。私は今回宇都宮で開催されたこともあって主催側として参加しました。イベント終了後はクタクタになりましたが、心地よい達成感を得ることもできました。これまでの開催地は東京をはじめその他すべて政令市で開催されていて、中核市での開催は初めてだったので、不安しかありませんでしたが、東京を省くとこれまで一番多い参加者数でホッとしました。この先また開催できるかはわかりませんが、もう私の出る幕ではないと思います。参加してくれたメンバー、一緒に実行委員として働いてくれたメンバー、同時開催のNARANONメンバーの皆さん感謝の意を捧げたいと思います。

回復

2nd Stage Center 秋葉紀男

10月に入り段々と秋めいてきましたが日によっては真夏日のような暑さがあつたりと寒暖差が激しい今日この頃ですが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。早いもので今年もあと3ヶ月となりましたね。令和元年はいかがだったでしょうか。

私自身の回復も今年の4月でクリーン10年を迎える事ができ、担当をしている2nd Stage Centerも開設から4年目に入りました。ここまで特に問題もなく歩んでこられたのも、支援してくれる関係機関の方々や家族の皆さんそして仲間のお陰だと思っています。本当に感謝です。

10月に入り先月9月を振り返ると、9月に宇都宮市で行われた「第15回NA日本リージョナルコンベンション」を一番に思い浮かべます。

日本で行われるコンベンションや海外のコンベンションに参加させてもらいましたが、自身が主催側になり関わり開催するコンベンション参加は初めてで、少し戸惑いもありましたが振り返るとなんとかかできるものだなと感心しています。これは一人の力では到底できる事ではなく関わった全ての仲間の力だと思っています。

率直な意見を言わせていただくとやはりコンベンションは参加している方が楽しいなと思いました。今回、主催者側になり思ったことは、私が参加したコンベンションの裏側では、こういった事が行われて、来て頂く仲間に対して本当に楽しんでもらおうとしていたのだという思いが改めてわかりこれからまたどこかのコンベンションに行く機会がある時は、別の見方や新たな気持ちで参加できると思います。コンベンションが終わった時には、もう当分こう言うイベントを主催者側になってやるのは勘弁と言う気持ちだったのですが、時間が経つとまた機会があればもう一度やってもいいかなと言う気持ちになるのはなぜでしょうか。不思議ですね。

話は変わりますが、2nd Stage Centerの現状を少し話したいと思います。現在は12名の仲間が日々プログラムに励んでいます。12名の内訳は、覚せい剤7名、アルコール2名、処方薬が1名、その他（シンナー、危険ドラッグ等）2名、計12名になっています。その中でもStage 1からStage upで移動（1sc～2sc）になる仲間が大半ですが。中にはStage down者や一度社会復帰してから再発、再使用がありStage 2からやり直す仲間も少数いて日々プログラムに励んでいます。

ダルクでの回復は、もちろん薬が止まっている事ですが、ダルクから出る事、即ち社会復帰も大切な回復の一部だと考えています。だけど社会に出てまた再使用して帰ってくる仲間は回復してないのでしょうか？私はそうではないと考えています。再使用してしまったと言える環境や、最悪になる前に戻って来られる事も大切な回復だと思っています。

薬を止める事も回復ですが、行き方を変える事、そして自分の生きづらさを相談したり、自分で気づき上手に付き合う事も大切な回復なのです。ダルクに居れば薬はとまりますが、昔の生き方を変えるのは中々難しいし時間がかかります。そんな中で昔の生き方を変えられずに悩んでいる仲間がいますが、その事に気づき悩んでいる事が回復であって、いつか必ず思い描いている自分、なりたい自分になると信じて日々私は仲間とプログラムに励んでいます。ありがとうございました。



墮落論

依存症のフミ

突然ですが、私は学生時代、神童でした。勉強も優秀、スポーツをやらせれば県3位のショートストップ、絵を描かせれば入選、ギター、ベース、ボーカル、ドラムをこなすそののなさ。ところが学業特待で進学科に入った高校時代、自分のバランスの良さがあまりに余って、反対にとてつもないコンプレックスに陥ってしまい、とてつもないクレイジーになりたい！ゴッホやピカソ、岡本太郎のようにと…妄想し始めました。孤高の存在になりてえ～とそんな僕が読んで読んだものは、ビートニク文学、勿論、音楽もサイケデリックロックアシッドフォーク、モダンジャズ等のジャンキーミュージック。何故、魅了されたのかは今をもってしてもわからない難題でこれからも謎解きは続くでしょう。

そんな僕が辿り着くべくして辿り着いたのが、ドラッグの世界、最初に手を出したのは19の時でした。当時、付き合っていた彼女にブロンを勧められて初めて口にしたのは最後、大麻、コカイン、と次々と攻め立ててくるフランス映画に出てきそうな少女（彼女は今は何をしているのだろうか？）に押し出されて気がつけばもう半分以上の人生をブロンと共に生きている。毎日ブロンを飲んで目を覚まし、ブロンを飲んで仕事に行き、ブロンを飲んでサックスの練習、毎日夜中にサックスを首にぶら下げパーカーのフードをかぶり、トンネルや橋の下で練習するのが日課だった。オー、何たるクレイジー…ヤッター、夢がかなった！夢がかなったと思っていた。ところが、ジャンキーミュージシャンの様に太く短くとはいかなかった。ブロンごときでは死ねないのだ。そして。僕はブロンを飲んで頭で決断したのがヒロインでのオーバードーズだった。その日のうちに前から行きたかったトルコに、ブロンを5瓶持って出発、無事到着、その日のうちにシリア難民ボーイズを発見、いい具合にハッシシとコカインの混ぜ物を勧めてくるじゃないですか！勿論、頂きますとドーブスモーク、「ん？君たちはヒロインを持っていないのかね？」と尋ねるとヒロインは持ってないと言うのでコカインだけ貰った。そう、初めて来た街でヒロインを致死量買えるほど甘くないのだ。

3泊5日のトルコ旅行、ブロン飲んで頭で考えることなんぞこんなとこです。仕事は休みがちになり、便はブロンで真っ白、便秘のせいで出た時は半端ない量、そしてある日その時が来た。どうしても流れない…詰まってしまった。水のトラブル‘クラシアン、早くて安くて安心ね～0120 500 500に電話…2万円の出費…毎日、便する度に2万円出費するのか?!と恐ろしくなりブロンを止めた。そして、幻覚、幻聴を初めて味わい精神科3ヶ月入院し、今は此処、那須1scにいる。回復なんて想像もつかないし、生きる指針も検討つかない。が、此処で普通の生活をする事に取り組んでみようと思う。其の先に生きる指針が見つかるかもしれない…今は、ボ～とした頭で普通の生活をするだけでいい。（働いていないので普通の生活以下だけけど）まだ、此処に来て1ヶ月ちょっと、頭は濁っているし身体も重い。寝不足でプログラムをこなすのも辛いがいきなり変わる事など無いのだろう。日々の生活の中で徐々に景色が変わってくるのだと思う。

神様、私にお与えください 自分に変えられないものを受け入れる落ち着きを 変えられるものは変えていく勇気を そして 二つのものを見分ける賢さを 墮落だ、間違いなく墮落。僕のバイブルは墮落論だったからね…そういえば坂口安吾も、ヒロボン中毒だったなあ。

このニュースレターを書いている今も漢字が出てこなくて困っている。現代病ではあるが薬をやっていた時、出来ていたことが出来ない自分に無力感を感じる。これでいいのだ、身を委ねよう。神様、私にお与え下さい 自分に変えられないものを受け入れる落ち着きを 変えられるものは変えていく勇気を そして 二つのものを見分ける賢さを。

「心の旅」

依存症のトキ

こんにちは、依存症のトキです。私は薬物(覚醒剤)依存症者です。早いもので、このダルクに入寮して1年5ヶ月が過ぎました。そしてニュースレターを書くのも今回で2度目になります。1度目は私が入寮して数ヶ月の頃で、まだまだ施設の事がよくわからない時でした。何を書いて良いのかも分からず随分と困って書いた思い出があります。今回は私の今の気持ちを少し書きたいと思います。冒頭に書いた通りダルク生活も1年5ヶ月が経ち自分が何をして来たか、そして自分が何をしたいのか迷う事が多くなって来た様な気がします。この様な事を書くのは、あまりよろしくないと思うのですがダルクに居る意味が良く分からなくなって来てしまったのです。そんな時、私は精巣状帯瘤と言う病気で入院しました。激痛と高熱で大変に辛い思いをしました。そんな時、私を支えてくれたのは仲間達でした。たまに来てくれる。仲間達の笑顔を見ては少しずつですが治療と共に仲間の笑顔の、お陰で病気は快方に向かい2週間ほどで退院する事ができました。そして施設に帰って仲間達の暖かい出向かいを受けて本当に仲間のありがたさ。大切さを感じました。私は何か見失っていた物を見つけ、この施設に居る意味を見つけた様な気がしました。人を思う心の大切さ思いやりを持って人に接する事の大切さ薬物依存と言う病を治す事も施設では大切な事ですが歪んでしまった人の心を治す事も大切なのだと言う事も思い起こされました。

話は変わりますが私が病院から退院して翌日の事です。私の唯一の家族である母が亡くなりました。その知らせを聞いた時には恥ずかしい事ですが気が遠くなりました。少年の頃から非行に走った私は母に数え切れない程の心配と迷惑を掛けて来ました。大人になってからも覚醒剤を覚え、そして警察に逮捕され刑務所に入り数々の迷惑を母に対して私は掛けて来ました。そんな私を母は見捨てる事無く私の更生を願い優しく接してくれました。私は、そんな母の願いを裏切り覚醒剤を使い続けました。そんな男の成れの果てがフラッシュバックを起こして器物を損壊して精神病院に入院させられた挙句とうとう、この施設に入寮した訳です。母を亡くした今、私が思う事は今までの間違っただけの生き方を改め母が一番、嫌っていた覚醒剤をキッパリと止める事そして、まっとうに生きる事。それが母が一番に願っていた事だと思えます。母が空からきっと私のことを見守っていてくれると思えます。言い方は、ちょっと違うのかも知れませんが母を亡くした事が私の人生のターニングポイントと思い、しっかりと自分を見つめて生きて行きたいと思えます。その為にも今、自分が置かれている立場を理解して古い考えを改め今後の生活、生き方に向けて今を大切に生きていきたいと思っています。

それからもう一度、話を変えさせて頂きます。ここで笑える話を一つ先日、行われたコンベンションで私はオープニング映像に怖い顔の人と言う役で出演しました。私としては怖い顔と言うのは憤慨なのですが日本？いやワールド的に顔が売ってしまったのではないかと勝手に照れている次第です。ごめんなさい！羽目はずして、ふざけてしまいました。コンベンションでは多くの仲間と出会い握手しハグをして回復を誓い合いました。とにかく、みんな楽しそうに回復を、楽しんでいる姿が目にとやきついています。私も負けずに仲間と共に回復を目指して生きて行きたいと思えます。まだまだ私の心の旅は続きますが、これにて心の旅、第一章の終了です。みなさん、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

シンプルな生活を送る為に

依存症のユウ

こんにちは、依存症のユウです。季節も変わり、過ごしやすくなってきましたが、皆さんはどうお過ごしでしょうか？

早いもので、宇都宮の生活も後2カ月ほどで、1年が経過いたします。宇都宮に移動する当初の頃は、地元という事もあり、昔生活していた環境や、自分の過ごしてきた場所や過去の思い出などが回想されて、不安も多大なものでしたが、その半面、期待もありました。

実際に施設移動して、宇都宮の生活が始まり、中心部などの過去に過ごしてきた場所を通過する場面も多いですが、無意識のうちに、気持ちの整理も出来ていたのか、懐かしさや良い思い出の事が甦って来たほか、特に動揺することなく、なんなく通り過ぎる事も出来ていました。プログラムの効果が出ているのだと感じました。昔行っていたような飲み屋などはなるべく通らないよう回避したり、今でもプログラムの実践を心掛けています。宇都宮での施設のプログラム内容も密度が濃く、日々毎日が学習の場となっています。過去の振り返りや、自分の感情の表現の仕方、ストレスなどのリスク回避の方法などたくさん自分に当てはまることも多く、自分にとっていろいろな課題が見つかりました。自分の将来の為にやるべき事なので、今は現実に真剣に向き合う事が出来るようにもなったと感じています。きっと過去の自分だったら現実にも向き合う事もできず、酒に逃げていたことと思いますし、自分にとってのこれからの目標や課題にも気付いていく事が出来なかったと思います。そう思える事や、今の自分があるのも、一緒に過ごしてきた周りの仲間の人達のおかげだと思えます。本当に感謝する事が多く、生活の中での影響も多く受けているのも事実だと感じています。まだまだ自分を変えて行く必要性もあり、本当に今の時間を真剣に大切に生きて行こうと考えて行動に移して行こうと思います。

時が経過して、施設の引越しを伴い、始まる前は、どんな感じになるのだろうと、不安や戸惑いもありましたが、無事に終了できて、皆で力を合わせて頑張れたと思えます。正直大変でしたが、いろいろ得た物も大きかったと思えます。環境の変化も伴い、最初は不安もありましたが、少しずつ慣れてきて、今は感情的にも整っていて、将来に向けていろいろ学んだり、準備する事を心掛けています。

また、9月にコンベンションという大きなイベントにも関わったことによっていろいろな体験や多くの人達と関わった事に感謝しています。過去に自分が感じられなかった感情にも純粋に気持ちを享け入れる事が出来るようになり、これを意識していろんな選択肢を持つことによって、将来シンプルな生活を送れるよう、今後とも新しい事や自分にとって苦手な事などに、チャレンジしていきたいと考えています。その為にもプログラムから離れない事、ストレスにならない事やリスクの回避を実践していく事を意識して生活していきたいと思えます。自分の人生、小さな幸せ、大きな幸せを持つことを目標にして、これからも生活を続けていきたいと思えます。初期施設に繋がった頃には処方も多く、生活事体もままならなく周りの仲間の人に助けをもらいながら生活していて、ほぼ毎日悪い事をして、事務所に呼ばれ、注意を受けていました。過去の自分を振り返ると、いろいろな事がありましたが、そういう自分もあったから今の自分にも気付ける事が出来ているのだと思えます。自分の内面的な感情なども少しだけかもしれないかもしれませんが、変化してきたと思えます。それはやはり周りの仲間の人達の助けや、協力があってからだと感じています。自分に少しでも関わってくれた人達に本当に感謝しています。読んで頂いて本当にありがとうございました。寒くなってきましたが、風邪などひかぬよう体調管理に気を付けて...
本当にありがとうございます。

回復

依存症のミホ

こんにちは。ニューズレターを書くのは昨年の12月以降となります。今月9月10日に入寮して1年が経ちました。入寮してもない当時は施設にいる意味も1日3度のプログラムを受ける意味もわかりませんでした。

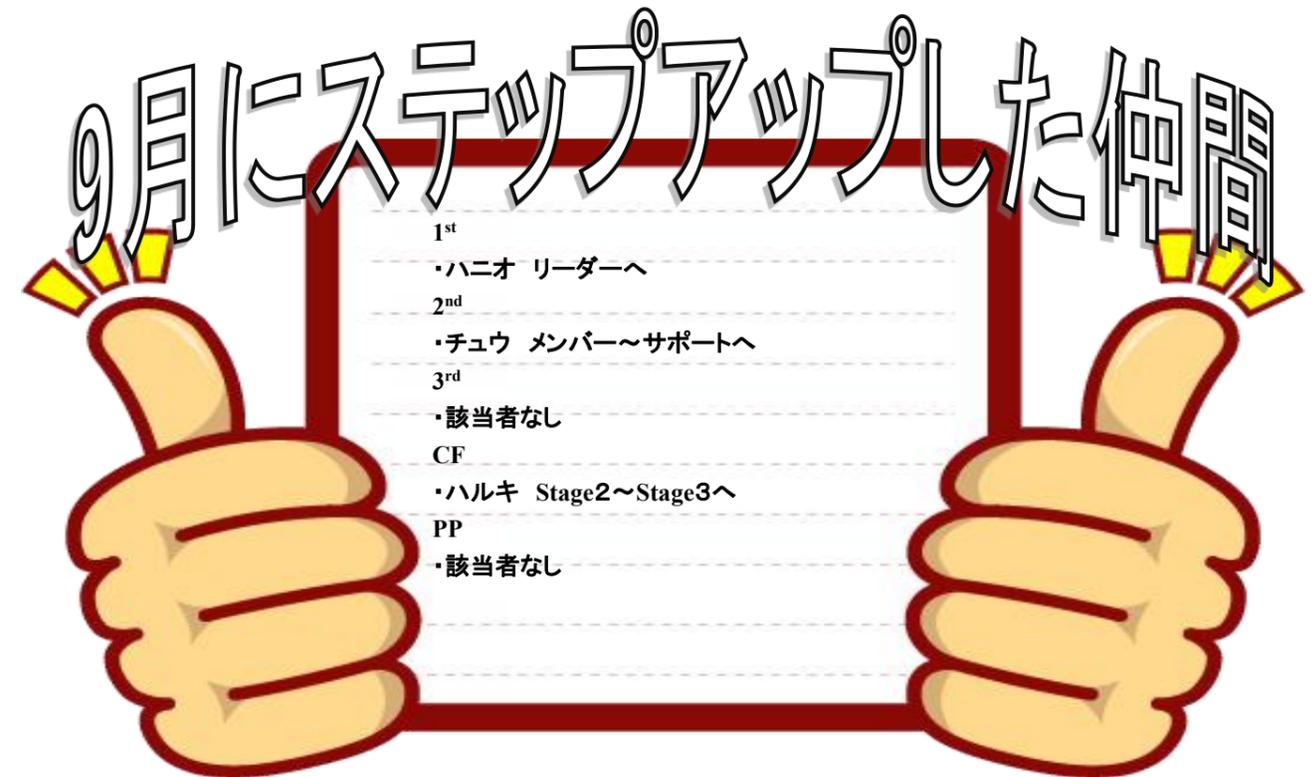
私は鬱と不眠症をもっていて、気持ちの不安定さも常に付きまとっていました。いつもそばには「大丈夫？」とか親切に声をかけてくれる仲間や楽しい仲間の存在に助けられ、今まで施設での薬物無しのクリーンの生活を重ねてくる事が出来た事に感謝しています。

今では当たり前の日常と成って身に付いた施設での暮らしですが、まずはミーティング会場や病院等々に移動する際にはほぼ自転車です。

私は自転車など子供の頃にしか乗っていなかったし、特に薬物、覚醒剤を使っていた頃は常にタクシーを移動手段に使っていたので自転車という何か原始的とか格好悪いとか貧しいとか、そういう団体の行動には中々違和感を持っていましたが、今では楽しくなったとか私って健康的だな〜って感じています。

この栃木ダルクの女子寮には現在14名の仲間がいます。ステージ制で1～3のステージがあり、私は今ステージ2を終えようとしている最中にいます。ステージ3を終える頃には、いよいよ社会復帰への準備へと進んでいく流れとなっています。施設のメンバーはもちろん全員、様々なアディクション（依存症）を抱え、その回復の為に昼夜共に暮らしている訳でお互いスムーズに生活していける様、沢山のルールが細かくあります。私は刑務所の経験がありますが、それに似たような所もすくなくならずあったりして？ここには塀がある訳ではありませんが、先ず単独行動、勝手な行動はできません。外出の際には全てグループ行動で時間も限られています。モノのやり取り等のあらゆるルール違反があった場合には懲罰ではありませんが、それなりの処分が科せられる規律の中で、ある意味人として今まで狂ってしまっていた生き方を私はここで日々修正しながら心身ともに鍛えさせていただいていると思っています。終わる事はもちろんなくて、これからもまだまだ続けていく事だと思っています。今私は施設でサブリーダーという役割りをさせていただいています。個性の濃い仲間達との暮らしの中で合う合わないとか、理不尽に思える出来事とか、そもそも他人だし、色々な自分の感情と向き合わざるを得ない状況が沢山でできました。自分自身が逃げ続けていても何も解決する事などなくて、その先にあるものは自分が変わっていく事、変わり続けていくしかないという自分に気付きました。

今までの長くて深い生き方があって今、自分を変えていくという事は私にとってとても苦しい事の連続です。けれどもそれが私にとっての回復に必要な事なのだと受け止めています。仲間の存在は私の助けであったり、成長の糧であるとも思っています。9月の初めにこの宇都宮でNAコンベンションが開催されました。前夜祭のクラブでのDJナイトではシラフで仲間達とワーワー踊ったり楽しい夜を過ごしました。翌日からはハードスケジュールでの本番3日間のコンベンションでは全国各地から同じNAの仲間のスピーチがあったり、一言でいうとアディクト達の年に1度のお祭りです。そこでは私が入寮する以前からの東京のダルク卒業生たちと念願の再会をする事ができ、心が熱くなりました。そして更に回復を頑張っていこう、私は1人ではないと感じる事ができました。私には私の薬物依存症の回復を共に助けてくれる夫の存在があります。今まで一言では言えない辛くて悲しい思いをさせて来たと思うばかりです。また高齢で今入院している母親に対して、私が飼っている2人の愛猫達について、いつか必ず私は回復をして家族再構築の為、全てに対して埋め合わせの人生を全うしたいと思っています。



9月の献金・献品

(献金) 那須トラピスト修道院様、匿名者3名様

(献品) 他匿名者5名様

トアキ助かへてお礼、栃木ダルク一同感謝しています

お知らせと一言

・9月は色々イベント等があり忙しく動き回っていましたが、10月もイベントが盛り沢山で、忙しくなりそうですが、その時その時を楽しみたいと思います。

編集 秋葉

立して

・布団、中古でも構いませんのでよろしくお願いします。

目標

依存症のもりお

私がダルクに入寮したのは、4年前の9月のことです。最初は那須の初期施設で8カ月の入寮生活を送りました。入寮当初は「出たい出たい」と思っていたのですが、1カ月・2カ月・3ヶ月・半年と生活をしていくうちに、もし今退寮したら私はもしかしたらまた薬を使ってしまうのではないかと思うようになり、そうしたら今まで我慢をして施設生活を送り薬をやめ続けてきた時間もったいないなと思えるようになりました。

そんな頃、那珂川の施設で頼れる人との出会いがあり、この人と生活することができたら良いなと思うようになりました。そして那珂川の施設に移動したいと相談をしたところ、願い叶って施設移動できることとなりました。

当初、那珂川に移動してきたときは、自分なりに満足した生活を送ることができていたのですが、移動してきてから1カ月くらい経った頃なんと、その頼りにしていた人が那須の施設へ移動することとなってしまいました。正直こんなことになるなら移動なんかしなければ良かったなと思いました。

それでも那珂川の施設で生活を続けていくうちに、また新たに頼れる人ができて、自然と仲がよくなり、そのようにして那珂川の施設で3年半の生活が送れるようになりました。那須の施設と那珂川の施設で合わせて4年以上の入寮生活となりました。

そんな入寮生活中、父親が亡くなった時には私も精神的におかしくなり、3回に分けて合わせて1年の入院生活を送りました。今は退院してから1年半位経ち精神的に回復もしてきましたが、今度は母親が入院生活を送っています。母親に何かあったらまた精神的におかしくなるのではないかという不安をもちつつも、何とか施設生活を送れています。

そして去年の12月に免許の7年の欠格期間が終わり、とりあえず手始めに原付の免許を取ることができました。自慢ではありませんが100点満点でした。できることならば次は普通車、そして大型・けん引・大型2種と、昔持っていた免許を一から取り直し、時期が来たならばまた社会に出て仕事をすることを目標として、自分なりに前向きな施設生活を送ってきました。

ところが今度は、私の両手の手先(指)が思うように動かなくなるという病気にかかってしまいました。4件の病院をたらい回しにされ、最後の最後に獨協医科大学病院という大きな病院で手術をしてもらえることとなり、7月には左手の手術を、8月に今度は右手の手術をしました。全身麻酔を施しての大手術となりましたが手術は無事成功しました。おかげさまで、手の事で今は何の悩みも心配もありません。

私は矯正施設(刑務所)とダルクで合わせて5年間薬を使わない生活が送れています。今まで30年間、毎日毎日使い続けた日々が嘘のようです。今は1日も早い社会復帰を目指して、あと10年位は働きたいと思う毎日です。

30才～40才頃には福島のいわきで一番大きな運送会社で働いていました。その時はかなり多めで、片手位の給料をもらって、妻や娘のためにマイホームを持ちました。その時のように長距離運転などの仕事をこなして、家を建てるとまではいなくても3人の子供たちのために稼ぎたいと思います。一番大切なことはもう2度と薬を使いながら運送業務をしないことです。

先ほども言ったように、自分には3人の子供がいます。そして孫もいます。今まで何もしてやれなかった分、子供たちや孫たちに喜んでもらえるように何かしてやれたら良いなと思っています。

これから目標を持って生活して行きたい、生活するぞ、と言うのが今の自分の正直な気持ちです。もう2度と薬は使わない生活を送ります。そして身内の信用を取り戻すことが、今の自分にできる唯一のことです。

施設生活の中では様々なことがあります、今後も自分自身のために、そして現在入院中の母親、子供たち、孫の為にも頑張ります。

施設報告

1sc (導入) 16名 2sc (回復) 12名 3sc (後期・社会復帰) 14名 CF (農業) 14名 pp ピースフルプレイス (女性) 14名計70名で活動しております。
各々の施設でステージ事のプログラムを実施しております。